

たかか「浮浪者」の死か 虐殺された3人の「死」は

中学生諸君！ 俺達は寿の日雇労働者です。

「皆んなは、もう忘れたか。俺達は決して忘れることができない。二月五日何がおこったかを、野宿するしかなかった仲間が「ポーター狩り」を町をきれいにする、一面白がったなど言われながら、次々と襲われ、虐殺されていったことを、これは一時の偶然か、一夜の悪夢か？ 皆んな！そこを考えてくれ。」

「皆んなは、知っている。皆んなをとりまわっている社会がどのような顔をしているか。どうか、しっかりと見据えてくれ。本当に見据えてくれ。俺達曰くは、この社会を、皆んなの見据えている顔そのものを、同じように見ているのだ。目をそらさないでくれ。」

「俺達は言う、虐殺の背景には、日雇労働者、野宿するしかなかった労働者（世間では「浮浪者」と、さげすみを併せてよぶ）に対する社会的差別がある。」

「皆んなは言われている。勉強しなければ社会の落ちこぼれになる。と。俺達は知っている。皆んなに日々無理矢理押しつけられる社会的圧力がどんなに強いものであるか。だが見据えてくれ。皆んなは、どんな社会で、本当は生きたいと思っているのか。そうだ。本心を心から叫んでほしい。俺達は、社会的圧力にもう負けない。「浮浪者」連徒虐殺に対して、俺達は立ち上がった。社会が放置して来たこの現実に対して、断乎として見据えたのだ。」

「皆んな聞いてくれ！ 俺たちは、まず最初に何が問題かを討論した。いろいろな意見が出た。警察も、教育も、行政も、事件前も今も。たかか「浮浪者」としか見ていない。そして皆んなの仲間の10人が特殊だった。いやそれはかりか、学校のしめつけを更に強のようとしていることもわかった。そうだ。君達を、再び銃を持った道兵とする動きた。」

「皆んな聞いてくれ！ 俺達は次に、横浜市に対して差別行政の責任を追究した。なぜ、野宿しなければならなかったのだ。なぜ「浮浪者」だけがねらわれたんだ。市のおえう方は言う「差別があったとは思いたくない」「思いやりが足りなかった」。そんなことを聞きたくないのだ。どうやって、現にある差別を、現にある生活の困難を、具体的にどうするのだ。又こうも言う、「集団心理による幼児性による行為」だった。と。皆んな！これでもいいのか。皆んなの不安や、いう立ち上げ、そんなことで片付けられるのか！」

(重宝へつづく)

君達の仲間の一人が新聞に次のような投書をしてくれた。

横浜で「浮浪者」を殺した少年達は、今、世論の袋だたきにあつていますが、あの子達を一方的に責める大人もさると思えます。「浮浪者」を駅の人バケツの水をぶっかけて追い散らしたり、警官が野良犬でもしかるようになつたりしているのをたびたび見ました。あの子達は、ブリーキがきかないまま殺してしまつたのでしょか。あの職員や警察官の行爲とそんなに違わぬと思えます。大人が思いお手本を見せておきながら、今になって、少年達を血祭りにあげているみたい。一たふせを頼む。

そうだ、俺たちもそう思う。社会の真の姿を見据えてほしい。

被害者は今

● Kさん(65才) 港で長く働いてきたが、年をとって体がまたず、数年前から余り仕事をせんで働いてきた。事件のケガは軽かったが、ショツクで体が不調、病院がよいを続けている。「せめて」思が、たかかの一言でも聞きたい。「次の時代をになう人たちがなんだから、なんで野宿しなければならなかったか。わかかってほしい。」

● Tさん(40才) 12月まで働いていた会社に出稼労働者が入ってきて、春までの間、断わられた。一月は雇用保険でなんとか食いつないだもの。仕事にありつかず、二月になつて野宿を始めた。矢先にやられた。一緒に寝かざる仲間達で、次の日から仕事へ行くことになつていったのだがダメになった。腕を骨折して、まだ完治していない。頭もやられたのか、ハキケ、マイが結んでいる。「労働者をバカにするけど、日本の何千万が労働者なんだ。みんな労働者のくせし、中流意識で自分だけはちがうと思つている。」

これはほんの一例です。俺たちも、できればアオカン(野宿)なんかじゃたくないと思つている。アオカンは体力も消耗するし、あの不安さはやった者でないで判らない。でも仕事のない時(今、本当に少ない)は、仕方なくそうするしかない。中には、部屋代をうかすために、アオカンしながら働く人もいる。体も悪いし年をとつているけど、「他人の世話にならない」とガンバル人もいる。様々な障害のための、野宿を続けるしかなかった人もいる。今、そうして生きていくギリギリの姿が、そのどろろが汚ないのだ。人々の生き様がわがらないのは人間じゃない。

83.7.25

〒210 662-5638 又は 641-0383 (呼)
中区寿町 3-9-6 東公館

日雇全協 寿日雇労働者組合